Continuous Growth with Sustainable Superior Profits

アンリツ株式会社 2020年5月





東証第1部:6754 https://www.anritsu.com





注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I. 中期経営計画 GLP2020 と事業戦略

- 1. 経営戦略の基本方針
- 2. 事業概要
- 3. 中長期の事業戦略の基本方針
- 4. Beyond 2 0 2 0 に向けて始動

Ⅱ. T&M 事業

- 1. T&M:利益改善目標
- 2. T&M:計測市場トレンドと事業機会
- 3. 産業別テストソリューション
- 4. Network Reshaping Test Solutions

Ⅲ. PQA 事業

- IV-1. 財務戦略
- IV-2. 配当方針
- Ⅳ-3. 企業理念とサステナビリティ方針
- Ⅳ-4. コーポレートガバナンス体制
- IV-5. 先端技術研究所の紹介
- V. 2020年3月期 連結決算概要



I. 中期経営計画 GLP2020と事業戦略

I-1.経営戦略の基本方針

『利益ある持続的成長』路線を徹底する

2020VISION/GLP2020の実現に全力で取り組む

GLP2020 *GLP2020 Plan = FY2018~FY2020

2015

120th

2018

2020 **VISION**

Somunications & Health of the State of the S

Global Market Leader になる

- アンリッらしい価値創造
- ワールドクラスの強靭な利益体質の実現

事業創発で新事業を生み出す

新しい分野でアンリッの先進性を発揮

I-2. 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

▶ モバイル市場 : 5 G, LTE

▶ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW

エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心

- X線検査機
- 金属検出機
- 重量選別機





(セグメント別売上比率) 2020年3月期 実績(連結): 1,070億円

> T&M 70%

モバイル 56%

25%

ネットワーク・インフラ エレクトロニクス 19%

PQA

21%

その他

9%

(T&M事業 地域別売上比率)

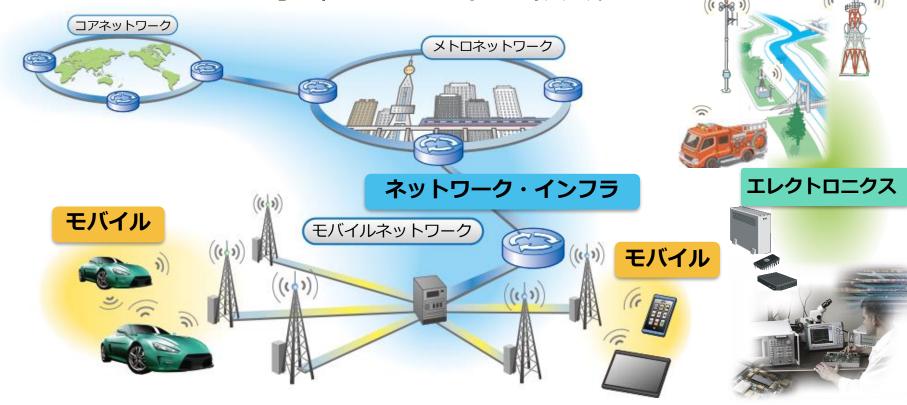
日本 22% アジア、パシフィック 44%

米州 22%

EMEA 12%

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

I-2-1. T&M事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク	・インフラ(25%)	
無線通信分野	モバイル (56%)		
汎用分野	エレク	トロニクス (19%)*	*電子部品等



I-3. 中長期の事業戦略の基本方針成長ドライバーを確実にキャッチして、"利益ある持続的成長"を実現する

	市場		中長期ガイドライン	
	年平均 成長率 (当社推定)	ビジョン/成長ドライバー	売上 成長率	営業 利益率
T&M	3-5%	5G/IoT社会を支えるリーディング カンパニーになる (1) 5G, LTE-Advanced (2) IoT/Automotive, Connectivity (3) IP Data traffic/Cloud Services	≧7%	≧20%
PQA	3-5%	ワールドクラスの品質保証 ソリューションパートナーになる 異物検出から品質保証市場に拡大	≧7%	≧12%
連結	_	_	_	≧18%
ROE	_	_	≥1	.5%

I-3-1. GLP2020: 売上高·営業利益計画(1/2)

GLP2020

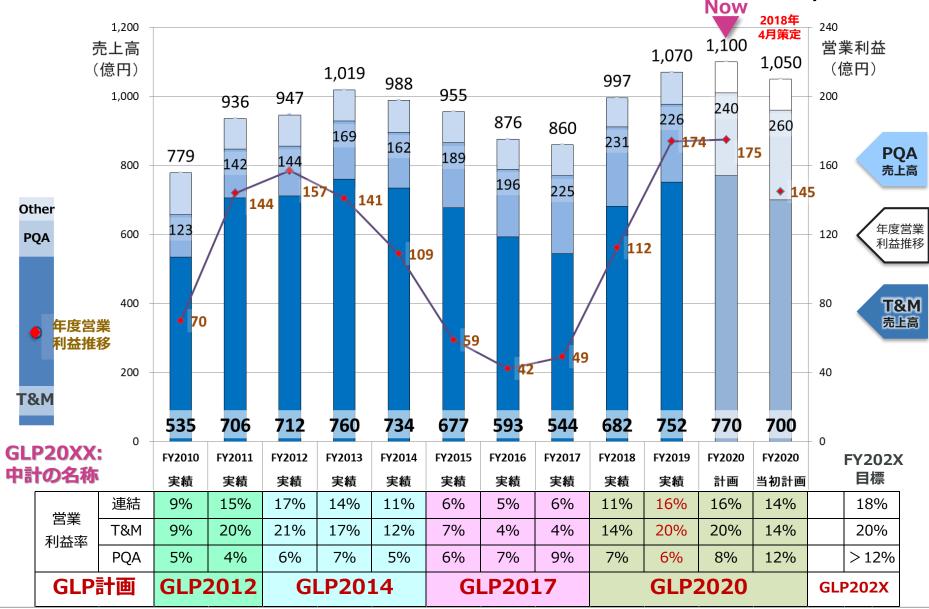
指標		FY2018 _(実績)	FY2019 _(実績)	FY2020 (計画)	FY2020*
売上高		997 億円	1070 億円	1,100 億円	1,050 億円
営業利益		112 億円	174 億円	175 億円	145 億円
営業利益率		11 %	16 %	16 %	14 %
当期利益		90 億円	134 億円	135 億円	110 億円
ROE		11 %	15 %	14 %	12 %
T&M 事業	売上高	682 億円	752億円	770億円	700 億円
	営業利益	94 億円	151億円	155億円	100 億円
	営業利益率	14 %	20 %	20 %	14 %
PQA 事業	売上高	231 億円	226 億円	240 億円	260 億円
	営業利益	16 億円	13 億円	18 億円	30 億円
	営業利益率	7 %	6 %	8 %	12 %

※2018年4月策定

(参考) GLP2020想定為替レート: 1米ドル=105円、1ユーロ=125円



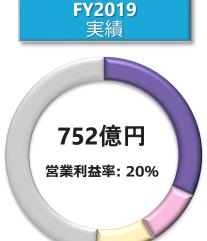
I-3-2. GLP2020: 売上高·営業利益計画(2/2)

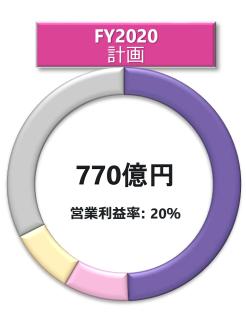


I-3-3. GLP2020 T&M事業進捗







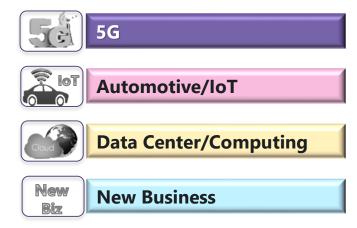




2020年度の取組

5Gビジネスの競争力強化に注力して成長機会を獲得

- ・グローバルな開発体制・顧客サポート体制の充実
- ・コンフォーマンステストシステム事業の推進



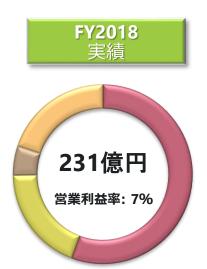
(注) FY2020の計画: 2020年4月27日に発表した公表値です。

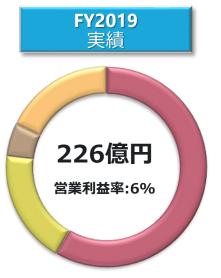


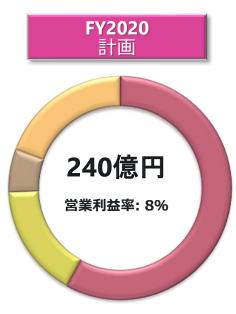
I-3-4. GLP2020 PQA事業進捗



FY202X









2020年度の取組

- ・米州・欧州の販売拠点強化
- ・ソリューションのプラットフォーム化推進

日本

米州

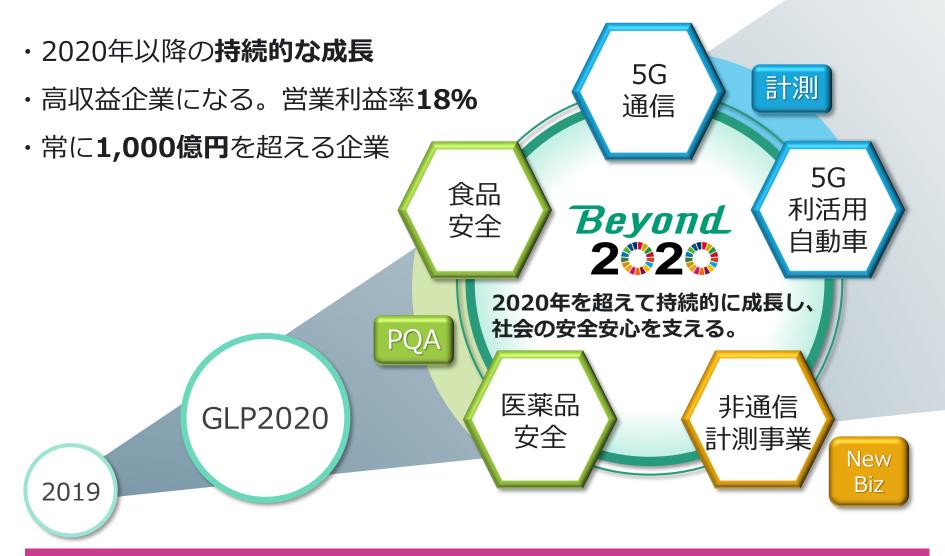
EMEA

アジア

(注) FY2020の計画: 2020年4月27日に発表した公表値です。



I-4. Beyond2020に向けて始動



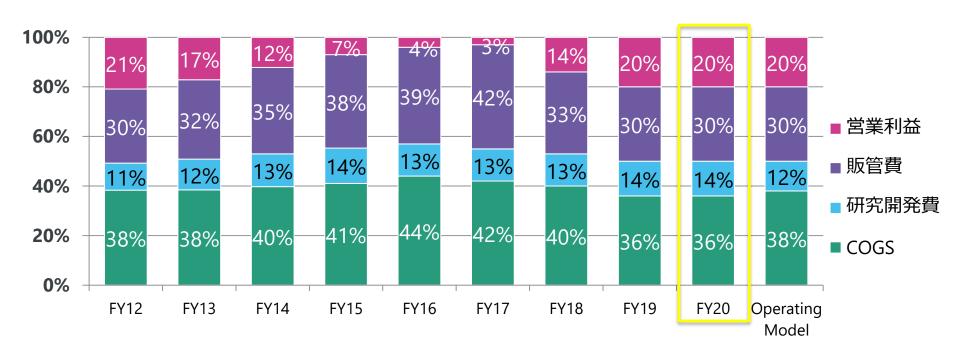
Beyond2020の実現を通じて社会課題を解決する



Ⅱ. T&M事業



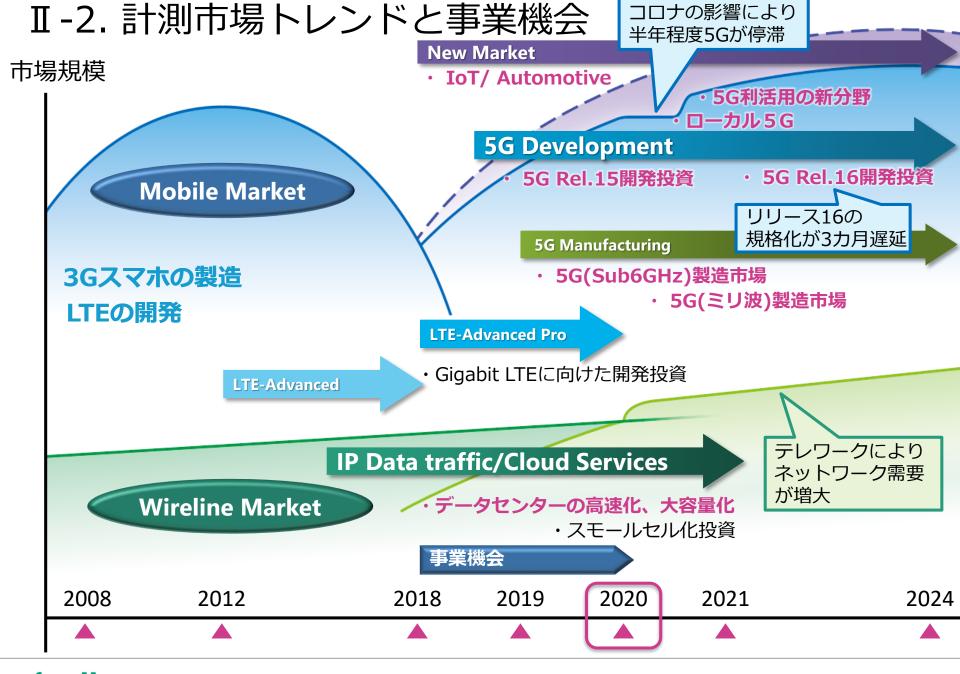
Ⅱ-1. T&M: 利益体質改善目標



コスト構造の改善施策

- ・高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウエア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 販管費 : 顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分
- *1 KPI:開発ROI(売上総利益/開発投資額)≥ 4.0





Ⅱ-2-1.5Gサービスのロードマップ

*出所:一般公開情報を 参考に当社作成

CY2019 CY2020 CY2021 ★ WRC-19 ★ Rel.16 (Phase2超低遅延、 ★ Rel.17 多数同時接続のユースケース拡張) Rel.15商用チップ開発 Rel.16チップ開発 先行端末開発 商用端末開発拡大 Rel.16端末開発 s6 mw s6 s6 mw s6 mw **s6** s6 mw s6 mw s6 mw s6



2020年以降

2019年

II-2-2. 中国で5G商用化に向けた開発投資拡大

CY **2019** CY **2020** 中国キャリア 中国政府 5G商用開始 5G免許交付 50都市 13万か所 1000万人 Huawei Oppo Lenovo 5G端末販売開始 世界初 5G NotePC発表 5G端末販売開始 Xiaomi **ZTE** 5G端末販売開始 5G端末販売開始 VIVO MWC上海2019 5G端末販売開始 Quectel

5GmmW通信成功

2020年5G端末10機種以上投入

Xiaomi



MediaTek 5Gモデム搭載端末販売

Oppo

2020年 日本で5G端末販売

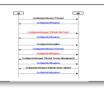


II-2-3.5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション

Sub6 / ミリ波

チップ開発・商用化端末開発

チップセットメーカ の技術検証



プロトコル



ベースバンドチップ セット / RF回路

端末メーカの 結合・性能評価



機能•性能評価

Sub6 / ミリ波

商用化端末開発

端末メーカ/テストハウス 規格適合性試験

Conformance Test (CT)



事業者受入試験

Carrier Acceptance Test (CAT)



量産試験

量産化

Sub6



RF校正・検査



MT8000A ラジオコミュニケーション テストステーション









MT8870A ユニバーサルワイヤレス テストセット



Ⅱ-2-4.5Gテストソリューション コンフォーマンス試験



ME7873NR 5G NR RFコンフォー マンステストシステム

無線性能の規格 適合試験



ME7834NR

5G NR モバイルデバイス テストプラットフォーム

通信プロトコルの 規格適合試験







主に、ヨーロッパと アジアの端末適合試 験を運用する組織



シナリオ

米州内での端末適合 試験を運用する組織



各通信事業者毎の 端末適合試験(CAT)

DOCOMO AT&T Verizon CMCC 等がある





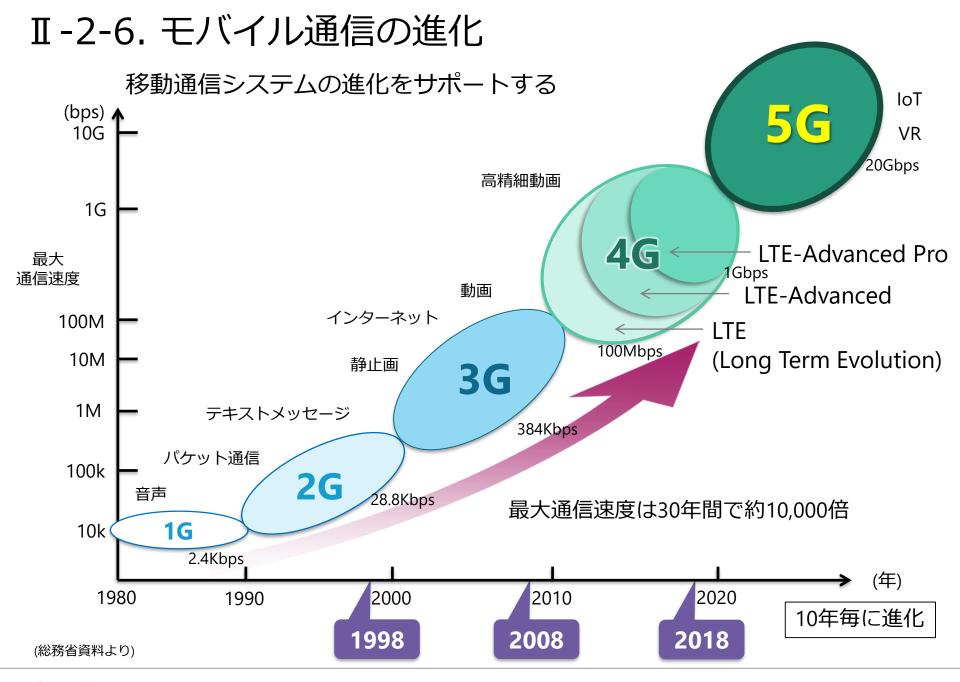
通信プロトコル

無線性能

Ⅱ-2-5. モバイルテストソリューションと事業機会 <LTE>

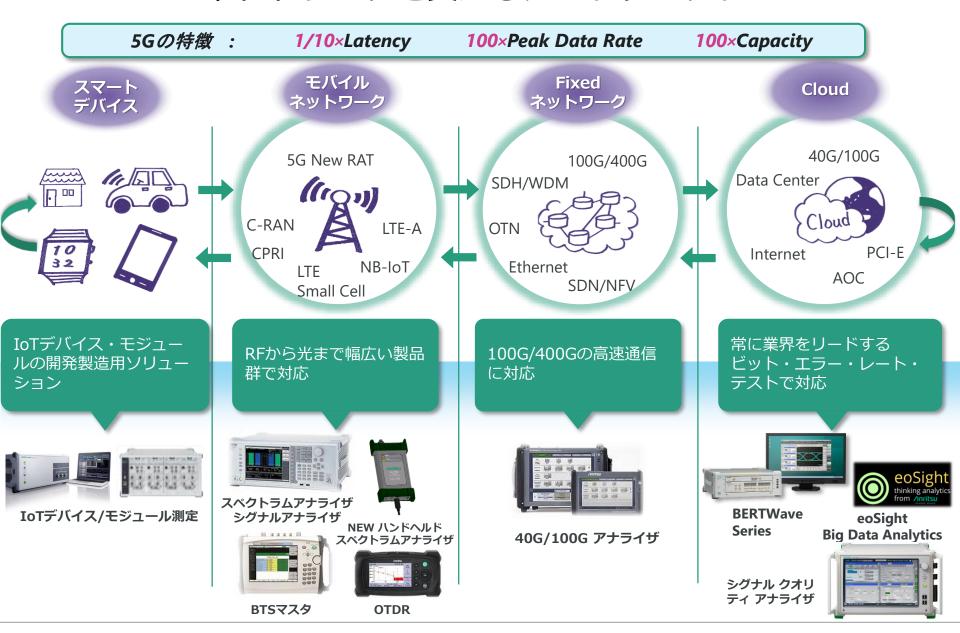
	プラットフォーム (コア)開発	規格適位		オペレータ 受入試験	スマートフォン 商用開発
		RF	プロトコル	文人印机	1F1/13176
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験	ì	通信キャリア認証 試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベン ダー、端末ベンダー	チップセットベン ダー、通信キャリ		通信キャリア、テスト ハウス、端末ベンダー	端末ベンダー アプリ開発事業者
主要テーマ	・FDD / TDD-LTE, LTE-Advanced, LTE-Advanced PRO ・CA (Carrier aggregation), VoLTE (Voice over LTE) ・MIMO (Multi Input Multi Output) ・3G/LTE and SRW (Short Range Wireless)のチップセット一体化			・データスループッ ト向上 ・消費電力 など	
テスト ソリュー ション					
競合状況	アンリツ: No.1ポジション R&S ローデ & シュワルツ		キーサー	デ & シュワルツ イト(アナイト) パイレント	R&S キーサイト



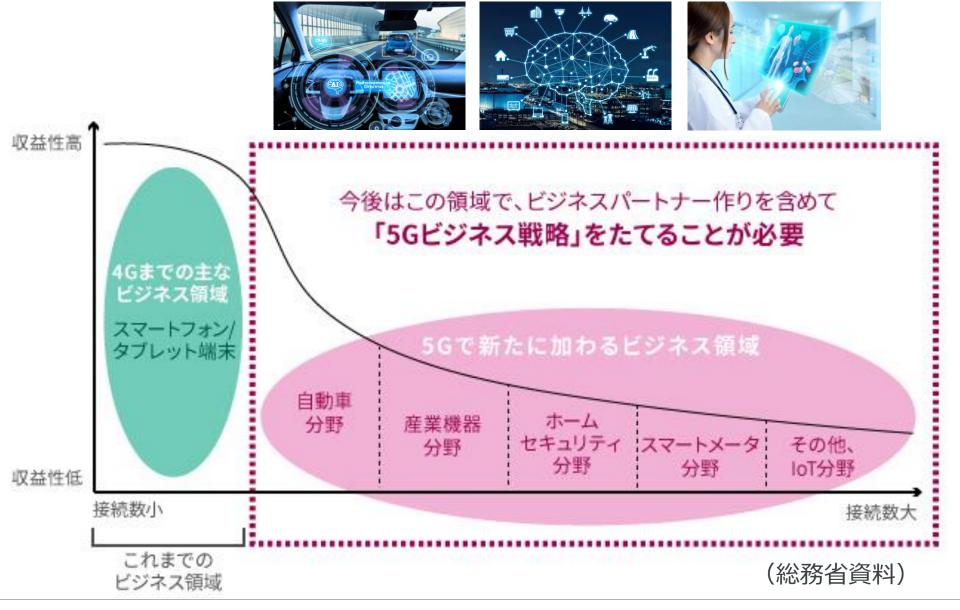




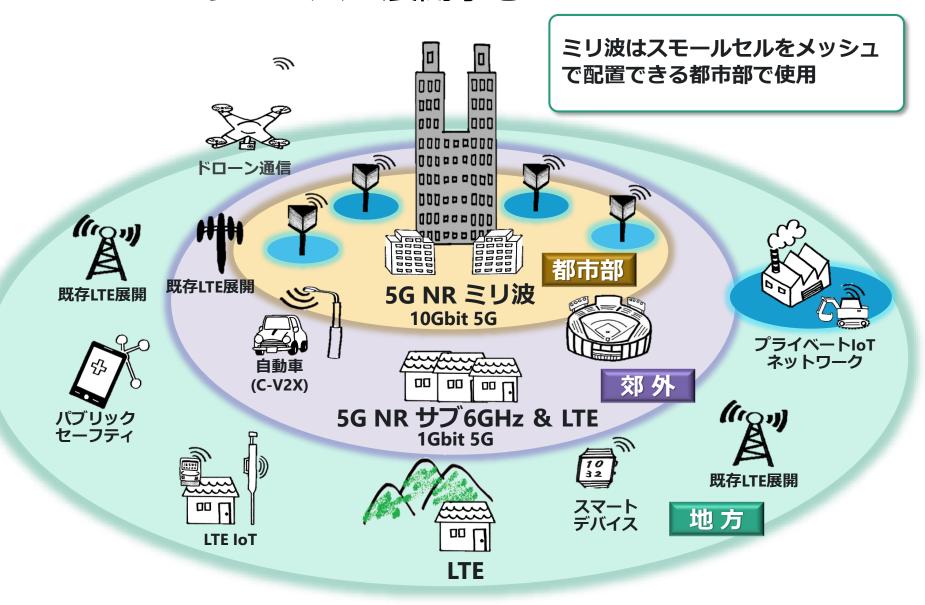
II-2-7.5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション



II-2-8.5Gは社会イノベーションのインフラとなる

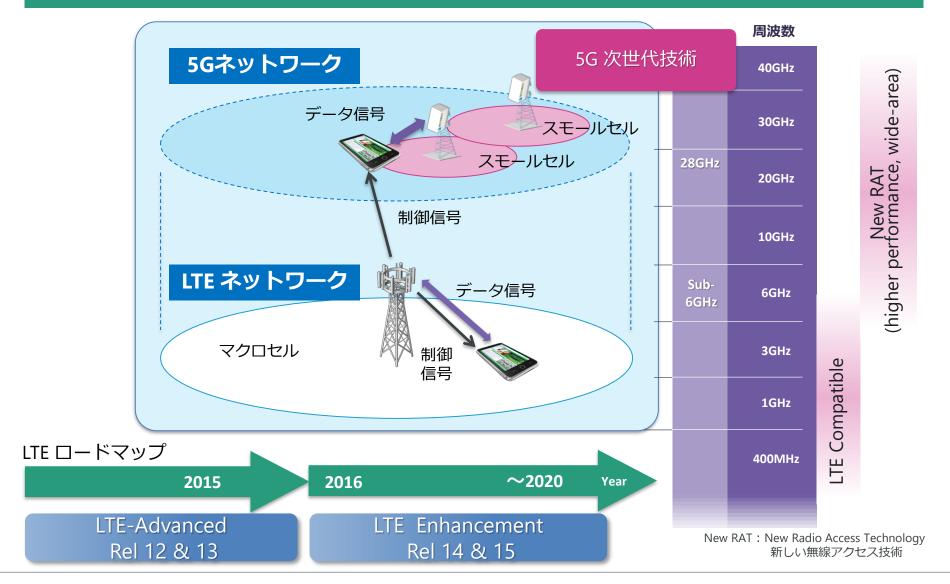


Ⅱ-2-9.5G サービスの展開予想



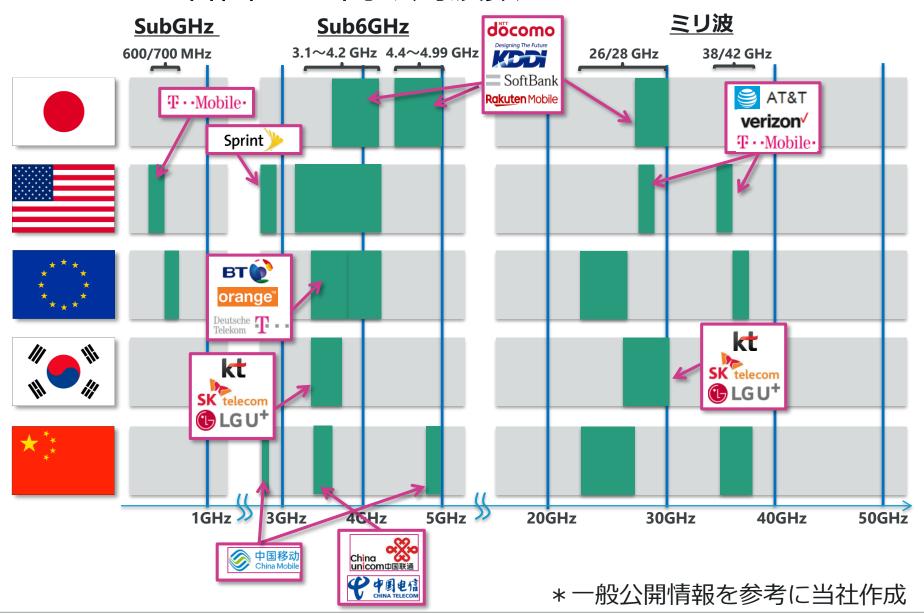
II-2-10.5GとLTEは共存し連係して動作する

5G = LTEの技術進化 + 次世代無線技術





Ⅱ-2-11. 各国の5G向け周波数



II-2-12.5Gチップセット・端末開発用ソリューション

5G市場向けチップセットや端末などの開発用テスタ ラジオコミュニケーションテストステーション MT8000A

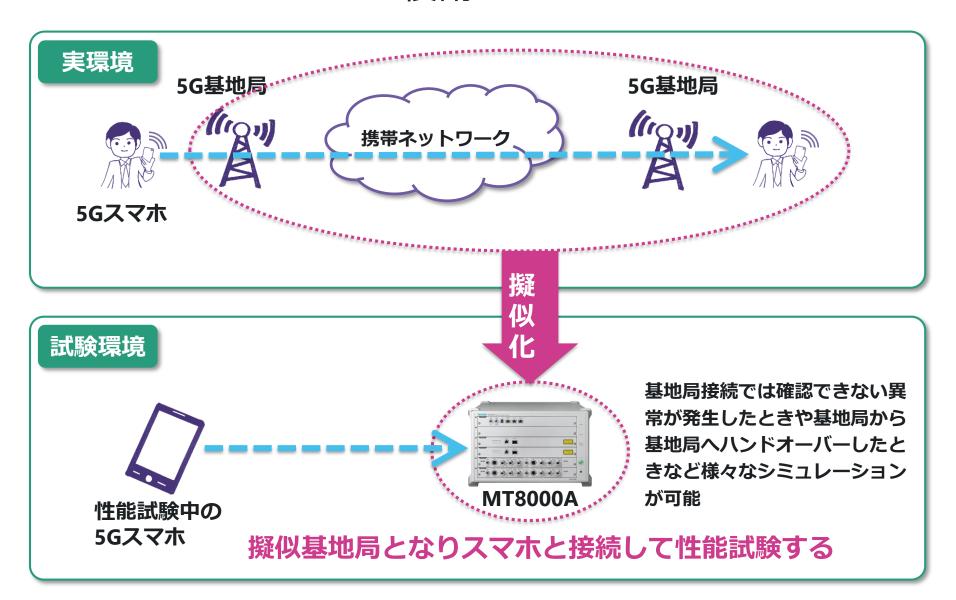
チャンバー (電波暗箱)



A0008TM



II-2-13. MT8000Aの役割



Ⅱ-2-14. 高い周波数 (ミリ波) の測定技術

低い周波数の場合



ケーブル接続することによって 正確に測定ができる

高い周波数(ミリ波)の場合

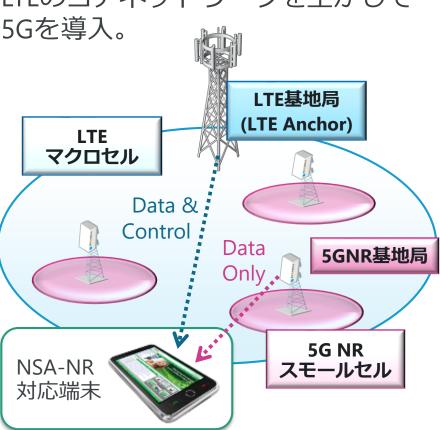
チャンバーを使ったOTA (Over The Air) 接続で正確に 測定ができる



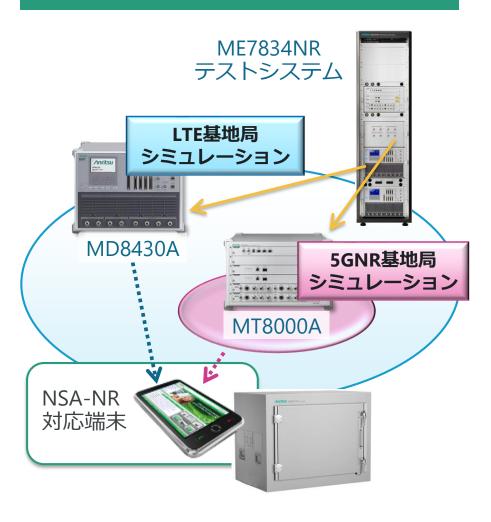
II-2-15.5G NSA-NR端末開発のためのテストソリューション

NSA-NR ネットワーク構成

LTEのコアネットワークを生かして



NSA-NR テスト環境





Ⅱ-2-16.5G基地局/端末向けソリューション



MS2850A シグナルアナライザ

5Gの基地局や端末のR&D、製造に必要な ミリ波測定ソリューションを今までに無い 低価格で実現したシグナルアナライザ

周波数範囲:9 kHz~32 GHz/44.5 GHz

解析帯域幅: 255 MHz (標準)、510 MHz (オプション)、

1GHz (オプション)

今までのLTE用のシグナルアナライザ



- 6GHz以下の周波数が主体
- 解析帯域は20MHzから数百MHz

5G用のシグナルアナライザ



- 44.5GHzまでの周波数をカバー
- 解析帯域は1GHzまで対応
- 商用開発、製造で導入できる低価格

II-2-17.5Gテストソリューション 基地局建設・保守

5G NR基地局のフィールド性能測定やカバレッジマッピング

フィールドマスタ プロ MS2090A

• 周波数範囲: 9 kHz~9/14/20/26.5/32/43.5/54 GHzをサポート

• 5G基地局だけでなく、既存のGSM、LTEなどもサポート 5G復調にも対応

54 GHzまでの送信スプリアス測定

使用例: 5G NR基地局測定 3GPP TS 38.104 V15準拠のqNB基地局パフォーマンス検証

- ・ 周波数エラー・占有帯域幅
- ・ タイムオフセット・隣接チャネル漏洩比
- ・ セル/セクタID・12.75 GHzまでの送信機スプリアス
- · 変調品質・EIRP
- ・不要放射・同期信号ブロック(SSB)
- ・FR1、FR2双方に対応・最大64ビームに対応

使用例:5Gカバレッジマッピング

チャネルパワー、EIRP、またはRSRPを含むRF データを連続測定し、特定の場所における5Gの 信号強度を地図上に表示。測定結果をデジタル マップや建築物平面図にグラフ表示。





Ⅱ-2-18. アジマスシステム社の買収

・会社名: Azimuth Systems, Inc.

・本社所在地:米国 ボストン

・事業形態:チャネル・エミュレータなどの開発・販売

・主な顧客:米州、EMEA、アジアおよび日本のオペレータ、チップセットベンダー、

ネットワーク機器ベンダー、UEベンダーなど

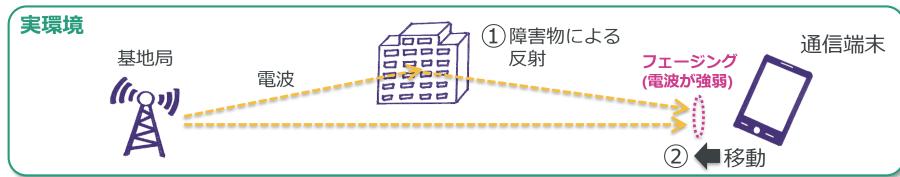


Protocol Technology



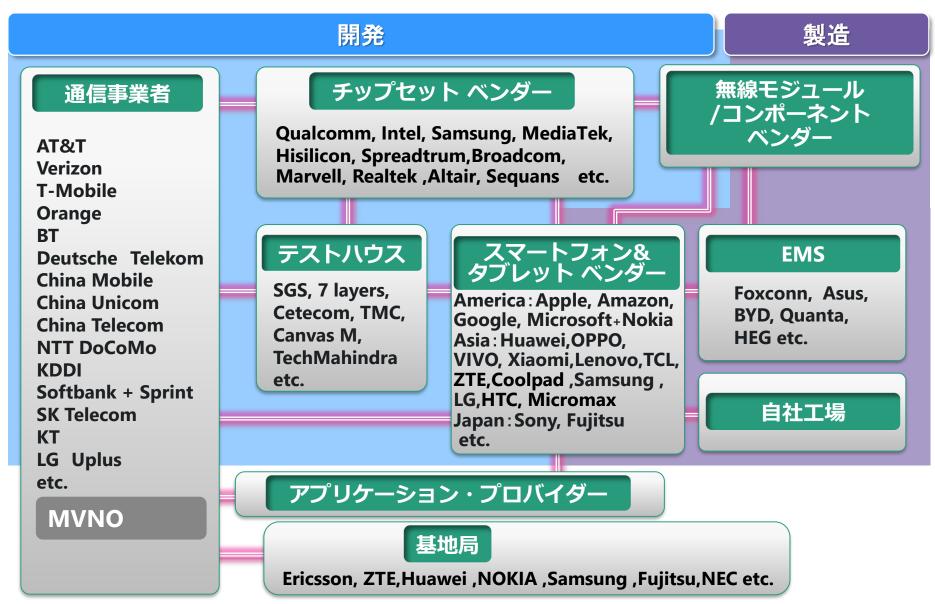
2016年9月

Network Infra. RF Technology



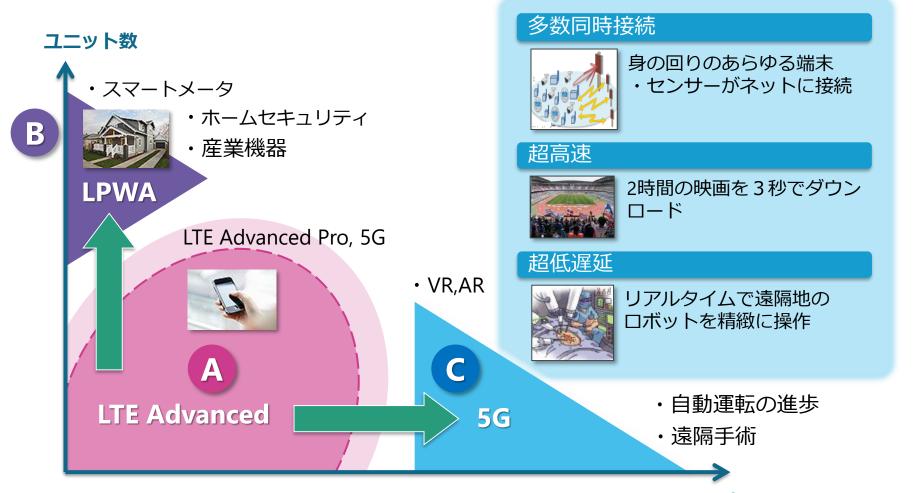


Ⅱ-2-19. モバイル通信市場の業界構造



Ⅱ-3. 産業別テストソリューション

5Gの利活用により、多様な産業分野、そして新しい市場の創造をサポートしていくことで、収益機会を拡大。



高速, 低遅延

Ⅱ-3-1. スマートフォンの製造ソリューション

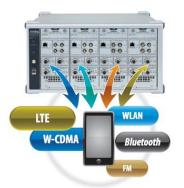


最近の動向

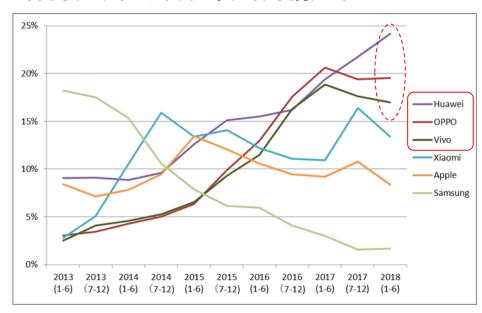
- 1. Huawei, Vivo, Oppo 中国ベンダーの台頭と競争激化(デ)
- 2. インド製造市場の成長

2G / 3G / LTE やコネクティビティ向けソリューリョン

MT8870A Universal Wireless Test Set



中国でのベンダー別スマートフォン出荷シェア*



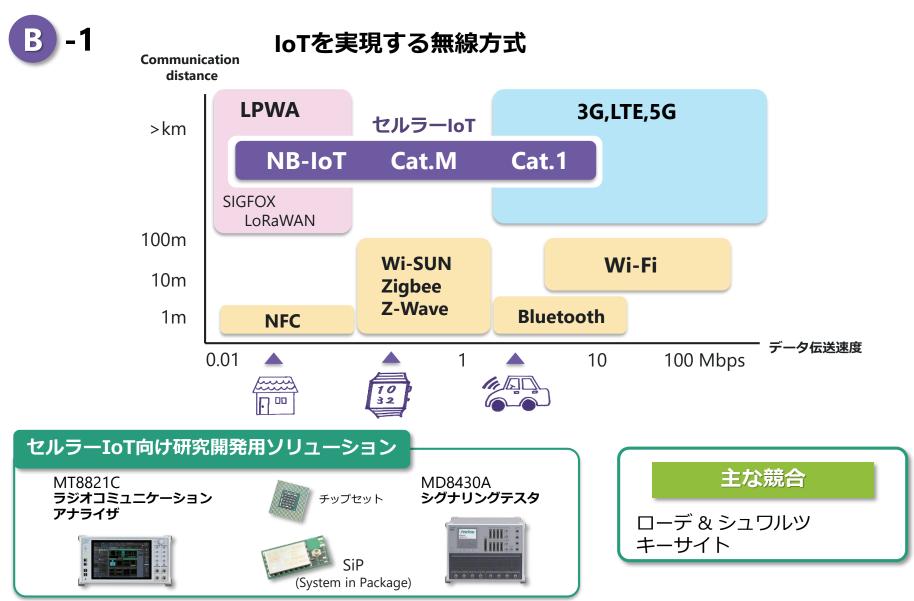
*Source: Gartner "Market Share: PCs, Ultramobiles and Mobile Phones, All Countries, 2Q18 Update" 24 Aug. 2018
Smartphone = Basic Phone, Premium Phone, Utility Phone
OS=Excluding WindowsRT and Proprietary
Graph created by Anritsu based on Gartner research

ローデ&シュワルツ、キーサイト

本レポートにおいてガートナーに帰属するすべての記述は、ガートナーの顧客向けに発行された配信購読サービスの一部として発行されたデータ、リサーチ・オピニオン、または見解に関する アンリツによる解釈であり、ガートナーによる 本レポートのレビューは行われておりません。ガートナーの発行物は、その発行時点における見解であり、本プレゼンテーション発行時点のものではありません。ガートナーの発行物で述べられた意見は、事実を表現したものではなく、事前の予告なしに変更されることがあります。



Ⅱ-3-2. IoT向けスマートデバイスの研究開発ソリューション

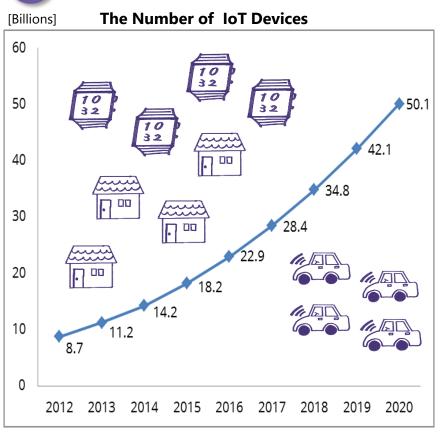




Ⅱ-3-3. IoT向けスマートデバイスの製造ソリューション

B -2

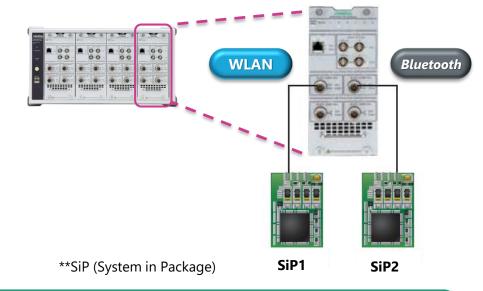
IoT向けコネクティビティ&モジュール市場の成長



Bluetooth / WLAN向け MT8862C ワイヤレスコネクティビティテストセット



MT8870A ユニバーサルワイヤレステストセット



*Source: World Economic Forum

主な競合

テラダイン、ナショナル・インスツルメンツ、ローデ&シュワルツ、キーサイト

II-3-4. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

 2015
 2016
 2017
 2018
 2019
 2020
 2021

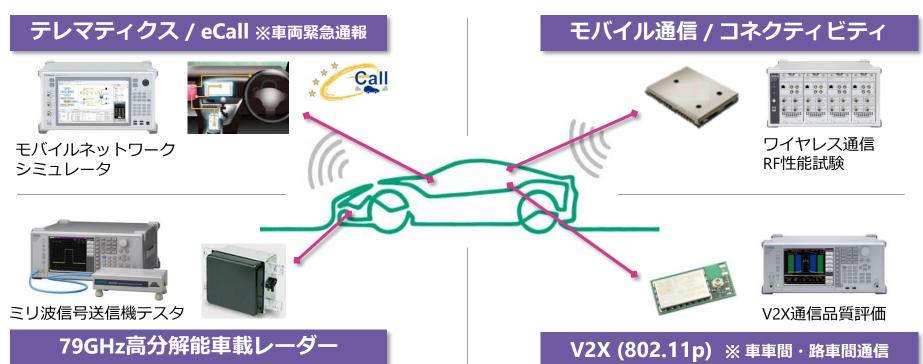
 自動運転の進化
 Level 3

● 4G対応テレマティクスの普及

● eCall搭載義務化

79GHzレーダーの利用拡大

● V2X実証実験の活発化





Ⅱ-3-5. 自動車市場の業界構造

安全,緊急, 快適,インフォテインメント,診断

カーベンダー

自動運転車

ADAS

(Advanced Driver Assistance System)

Telematics

(Telecommunication + Informatics)

ITS C-ITS

(Intelligent Transport Systems)

ダッシュボード ベンダー

送受信モジュール

(セルラー + V2X + コネクティビティ + アンテナ 等)

レーダーモジュール

アンテナ

通信衛星受信機

チューナー

モジュール ベンダー

セルラー モジュール,

コネクティビティ モジュール.

V2X モジュール,

レーダー,

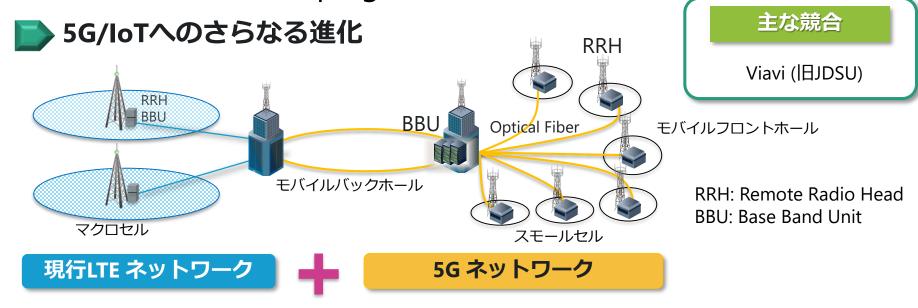
アンテナ,

コネクター, ケーブル 等

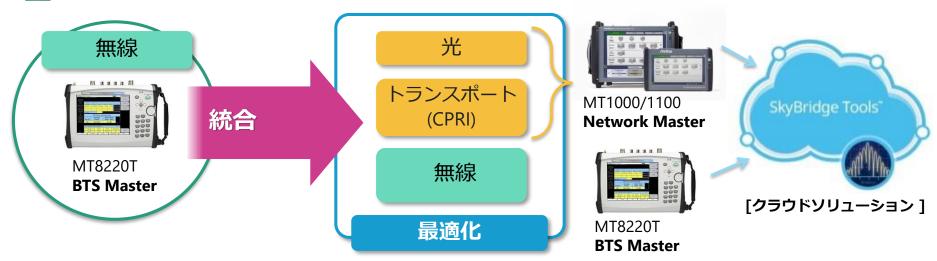
チップセット ベンダー

通信用半導体

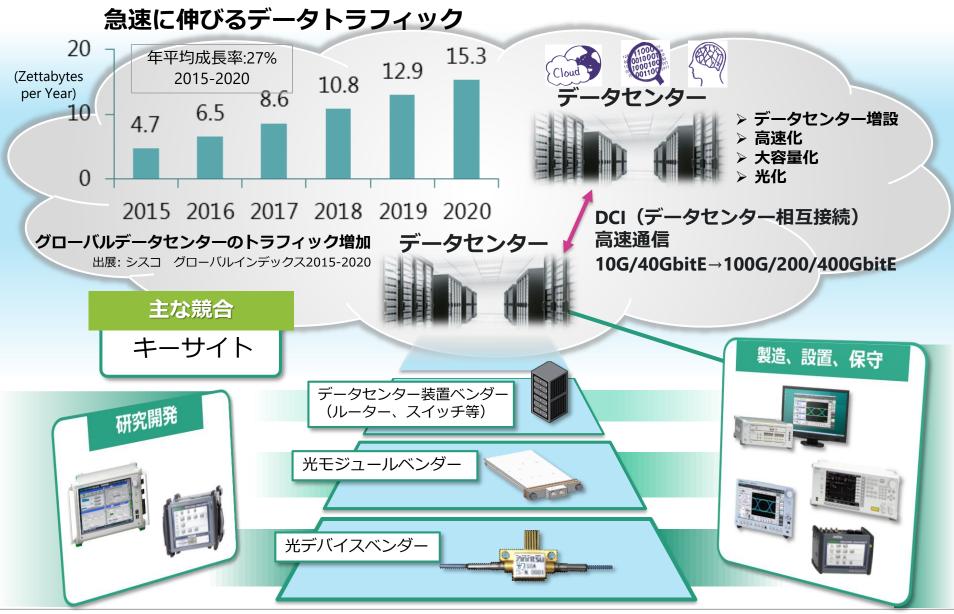
II -4. Network Reshaping Test Solutions



ネットワークテストソリューションの未来を変える



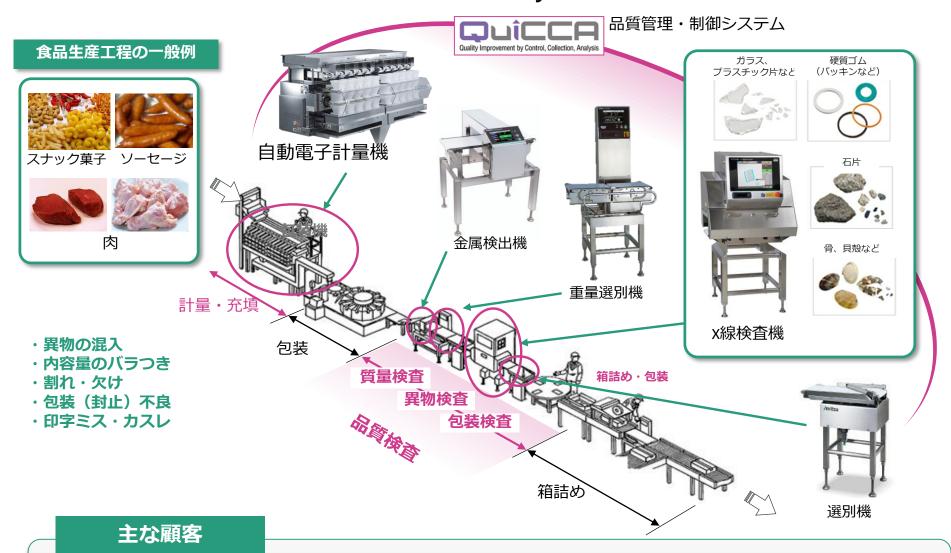
Ⅱ-4-1.クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション



Ⅲ. PQA事業

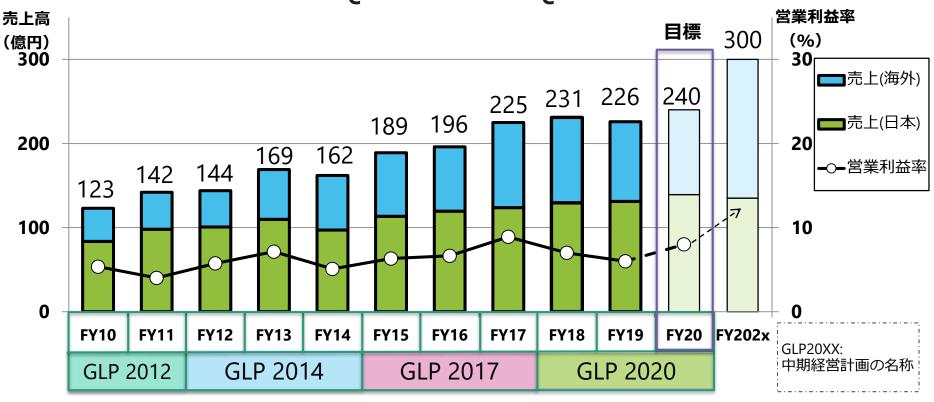


Ⅲ-1. PQA 事業 (Products Quality Assurance)



モンデリーズ、ネスレ、クラフトハインツ、日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループなど

Ⅲ-2-1. 成長するPQA事業< PQA >



市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査器をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端二ーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

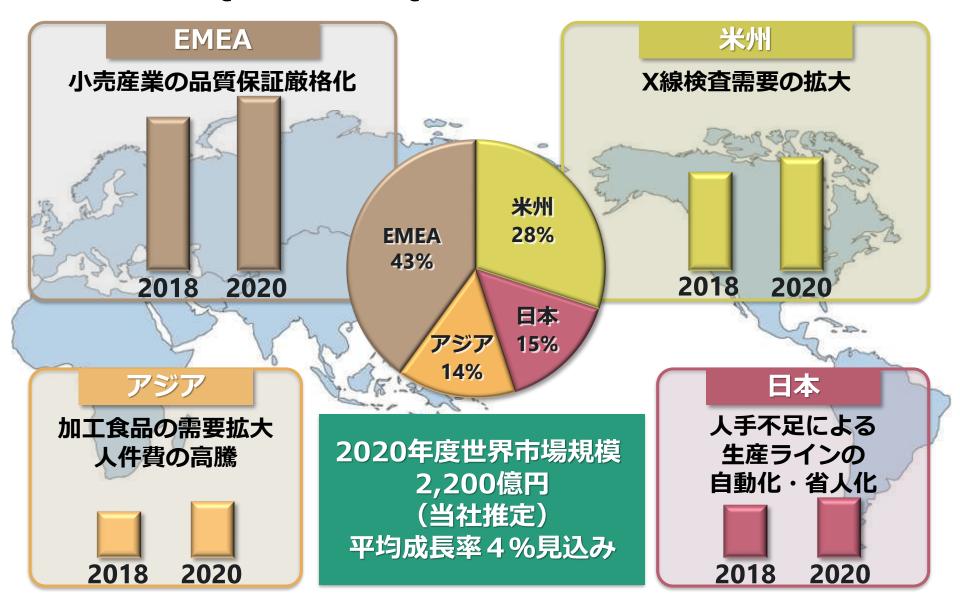
主な競合

メトラートレド・イシダ・マレル

(注) FY2020の計画: 2020年4月27日に発表した公表値です。

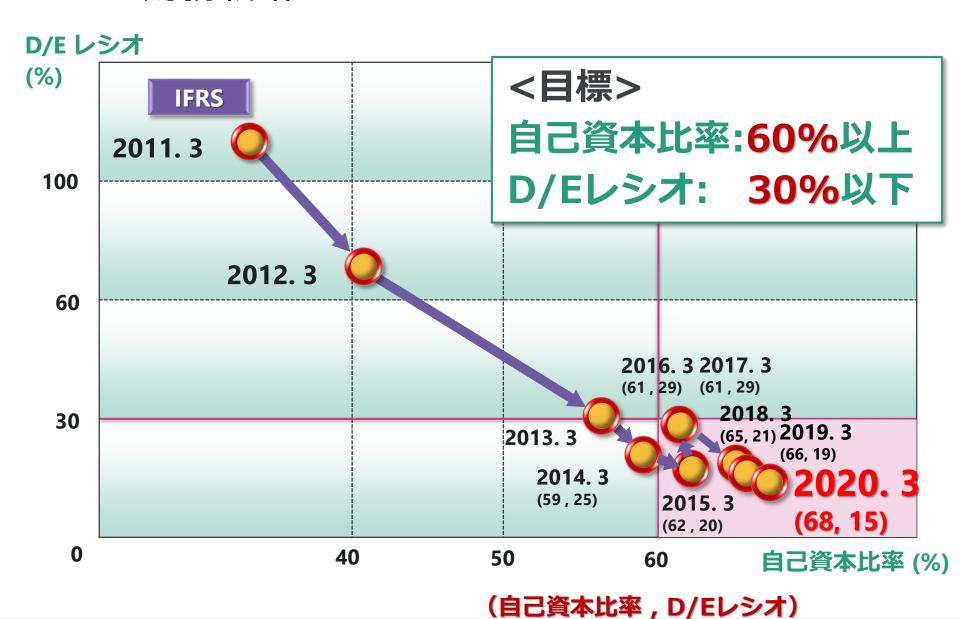


Ⅲ-2-2. PQA事業: PQA市場の現状と見通し





IV-1. 財務戦略



IV-1-1. GLP2020: 財務戦略

基本方針

株主資本コスト7%を上回るリターンを生み出す成長投資(含むM&A)と資本効率の改善で、 企業価値KPI(ACE & ROE)を向上する

* ACE(Anritsu Capital-cost Evaluation):税引後営業利益-資本コスト(WACC ,5%) ACE ROE 目標:ROE≥15% (億円) (%) 120 30 25.0 ACE(億円) 100 25 **-**■-ROE(%) 19.5 15 80 20 14.9 14 13.3 60 15 10.9 10.2 95 80 40 10 4.9 **52** 48 20 5 25 19 ()0 \wedge 6 \wedge 20 \wedge 5 \triangle 16 \triangle 16 \triangle 10 \wedge 40 FY2010 FY2011 FY2012 FY2013 FY2014 FY2015 FY2016 FY2017 FY2018 FY2019 FY2020 FY202X



IV-2. 株主還元

▶ 利益処分に関する基本方針

連結業績(当期利益)に応じた利益処分を行うことを基本方針とする

1. 連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率 (DOE) を上げることを基本とする

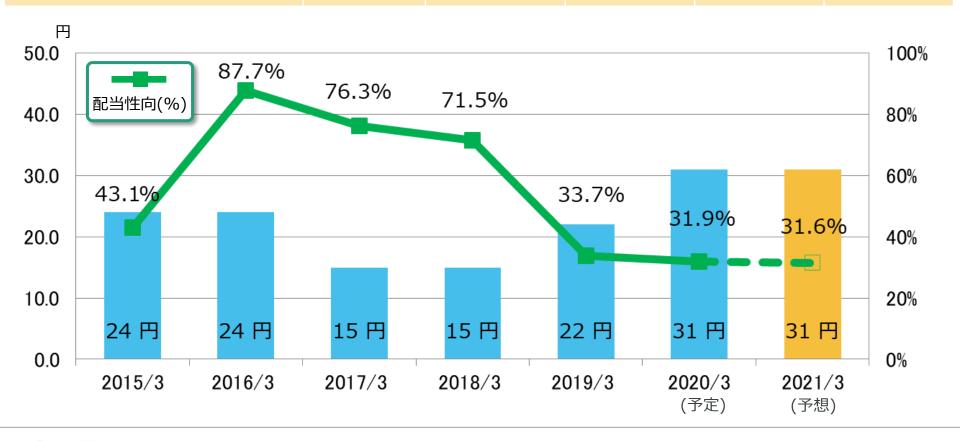
2. 連結配当性向30%以上を目標とする

3. 総還元性向を勘案した株主還元施策も機動的に行っていく

IV-2-1. 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2021年3月期(予想)	31円	135億円	31.6%	4.4%	14%
2020年3月期(予定)	31円	134億円	31.9%	4.7%	14.9%



IV-3. 企業理念とサステナビリティ方針

経営理念

誠と和と意欲をもって、"オリジナル&ハイレベル"な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで社会のサステナビリティに 貢献し"利益ある持続的成長"を実現する

サステナビリ<u>ティ方針</u>

- 1. 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で快適な社会構築に貢献します
- 2. 誠実な企業活動を通じて、グローバル経済社会との調和を実践します
- 3. 人と自然が共存する環境経営を推進して地球環境保護に貢献します
- 4. すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを推進して、強固なパートナー シップを構築します



IV-3-1. サステナビリティ経営を軸にすえる





IV-3-2. サステナビリティ目標 (SDGs)

事業を通じて社会課題を解決していく

アンリツグループ全体

安全・安心なインフラを 整備し、持続可能な社会 の建設につながる産業の 創造とイノベーションの 促進に貢献する



計測事業

安全・安心であらゆるもの がつながる強靭なネット ワークインフラを整備し、 持続可能な社会の建設に 貢献する



PQA事業

食品や医薬品の品質保証の 高度化を通じて、誰もが安 全で安心して暮らせる社会、 食品ロスの少ない持続可能 な社会の実現に貢献する



社会の要請に応える課題(ESG)

グローバル経済社会との調和

多様な人財とともに、個々 人が成長し働きがいのある 職場づくり貢献する







ガバナンスの強化と充実

透明・公正かつ迅速・果断な意思決 定とリスク管理で誠実な企業活動を 行う



地球環境保護の推進

持続可能な消費と生産の企業 活動で持続可能な社会づくり に貢献する





コミュニケーションの推進による共有価値の創造

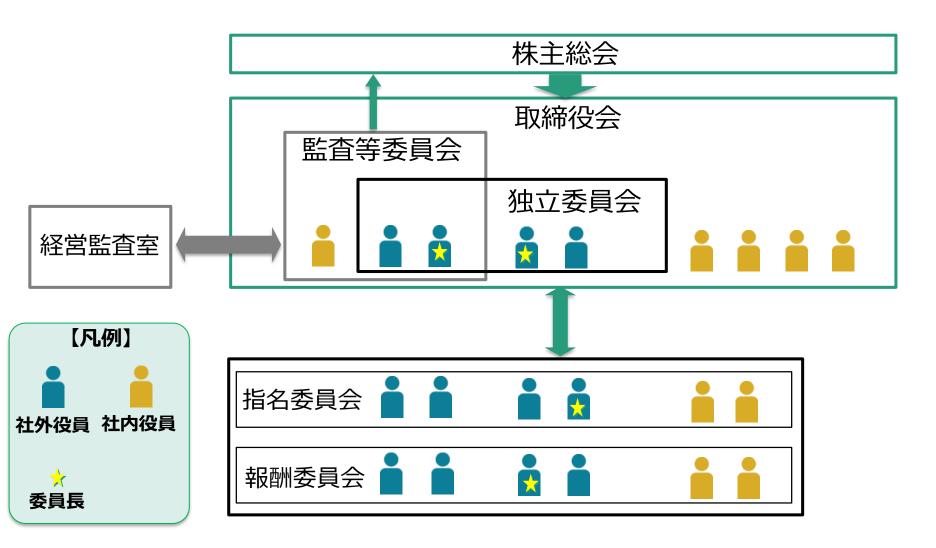
すべてのステークホルダーとともに 協働して共有価値の創造に貢献する





IV-4. コーポレートガバナンス体制

-競争力を高め、継続的に企業価値を向上させていくために-





IV-5. 先端技術研究所の紹介

6G(Beyond 5G)

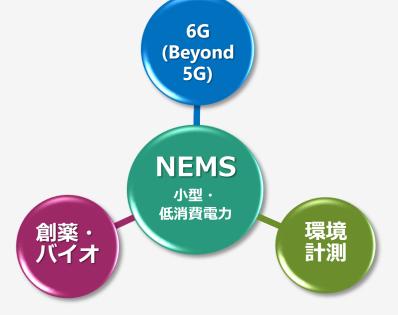
- 100GHz超コンポーネント開発
- 電波干渉のモニタリング技術



次世代技術の獲得

• 超高感度センサへの期待の高い

"NEMS[※]"の実現



※NEMS(ネムス、Nano Electro Mechanical Systems)は、半導体加工技術をベースとするマイクロマシン(MEMS:メムス、Micro Electro Mechanical Systems)をさらに小型化した、nmオーダーの機械構造を持つデバイス

V. 2020年3月期 連結決算概要

2020年4月27日公表



V-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶前年同期比増収、増益

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比増減額	前年同期比增減率(%)
受注高	1,008	1,077	69	7%
売上高	997	1,070	73	7%
営業利益	112	174	62	55%
税引前利益	114	172	58	51%
当期利益	90	134	44	49%
当期包括利益	94	119	25	27%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



V-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶T&M:5G開発需要は特にアジアで順調

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比增減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	682	752	70	10%
	営業利益	94	151	57	61%
PQA	売上高	231	226	△ 5	△2%
	営業利益	16	13	△ 3	△20%
その他	売上高	84	93	9	10%
	営業利益	11	19	8	66%
調整額	営業利益	△9	△9	0	-
合計	売上高	997	1,070	73	7%
	営業利益	112	174	62	55%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

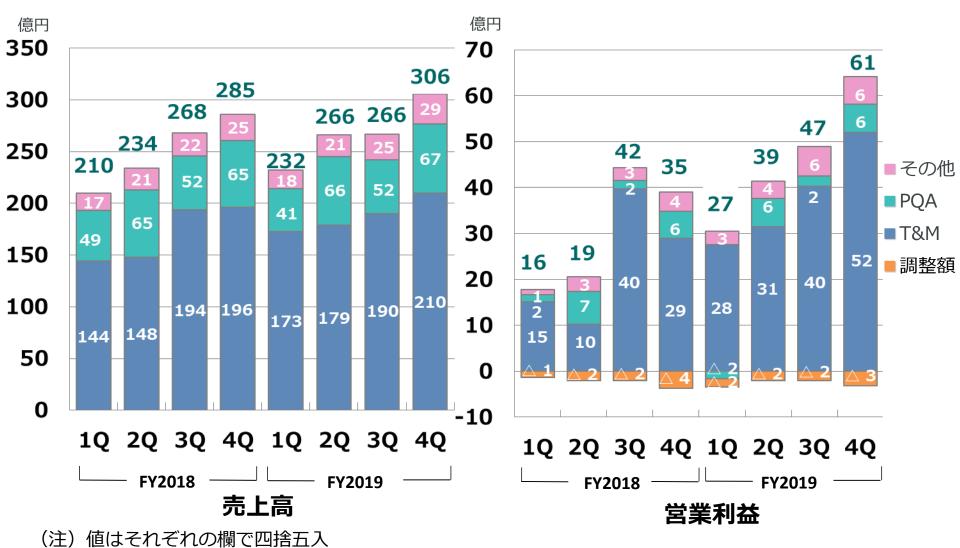
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance



V-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1-3月)営業利益率:連結20%, T&M25%, PQA9%





V-4. 事業別営業概況

セグメント 2020年3月期(4月-3月) の状況					
T&M :	▶ T&M:5G商用化スケジュールが順調に進展				
モバイル	LTE	LTE-Aの投資は抑制・縮小が続く			
モハイル	5G	5G開発の需要が順調に推移			
Network I	nfrastructure	5Gインフラへの投資が拡大傾向			
アジア	5G商用化に向けた投資拡大				
米州	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視				
▶ PQA: 国内・海外とも食品市場の品質保証、 自動化、省力化の投資が堅調					

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

V-5. 受注高推移

億円

▶ T&M:前年同期比7%減

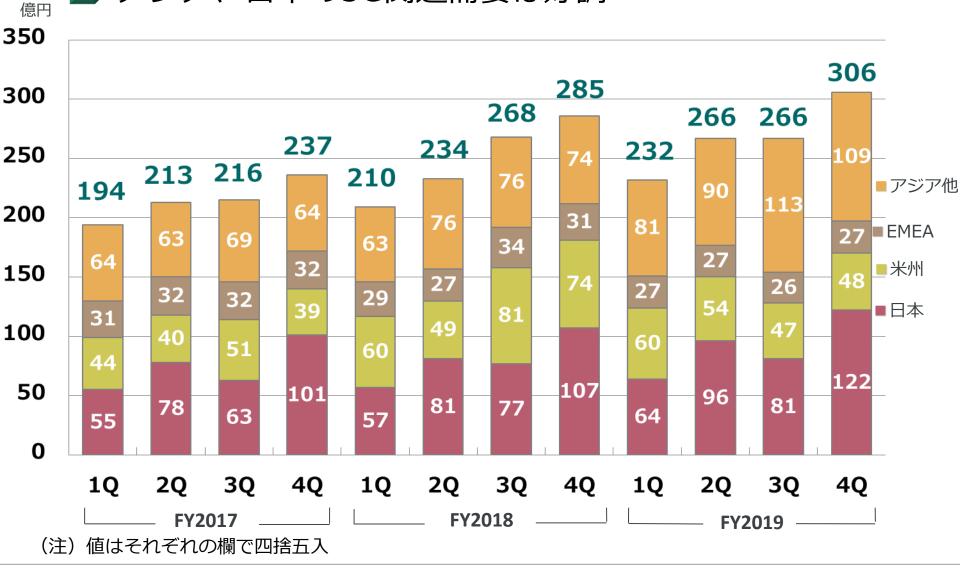
▶ PQA:前年同期比7%減

■その他 PQA ■T&M **1Q 2Q 3Q 4Q 1Q** 2Q **3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q** FY2017 **FY2018** FY2019 (注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



V-6. 地域別売上高推移

▶ アジア、日本の5G関連需要は好調





V-7. キャッシュフロー

■営業CFマージン率13.8%

FY2019 (累計)

①営業CF: 147億円

②投資CF: △ 37億円

③財務CF: △ 76億円

フリーキャッシュフロー

(1) + (2) : 110億円

現金同等物期末残高

477億円

有利子負債残高 (リース負債を含む)

146億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

内訳

(単位:億円)

税引前利益 172

減価償却 50



V-8.2021年3月期 通期業績予想(連結)



▶ 新型コロナウイルスの影響により上期は市場が停滞

(単位:億円)

		2020/3期	2021/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比增減率(%)
売上高		1,070	1,100	30	3%
営業利益		174	175	1	0%
税引前利益	税引前利益		175	3	2%
当期利益		134	135	1	1%
T&M	売上高	752	770	18	2%
I QIVI	営業利益	151	155	4	2%
PQA	売上高	226	240	14	6%
	営業利益	13	18	5	40%
その他	売上高	93	90	△ 3	△3%
	営業利益	19	12	△ 7	∆37%
調整額	営業利益	△ 9	△ 10	△ 1	_

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) FY19 為替レート : 1米ドル109円、1ユーロ=121円

FY20 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=120円



Infitsu envision: ensure